

【一般演題3】 第10席 「肉苛者—『素問』逆調論に於ける疾病の記載について—」

神奈川 家本 誠一

『素問』『靈樞』は体系的医学書である。故に医学の全ての部門を持つ。疾病論は其の大きな局面を占めている。奇形、炎症（感染症）、変性（骨、血管他の代謝病）、腫瘍（腸部腫瘤）の各病変を見ることができる。此処には神経性疾患として、肉苛者を取り上げる。

肉とは筋肉である。可は激しく厳しく手酷いことをする意味であるが、其の原意は可の字にある。可とは鍵型に屈折することである。即ち手足の筋肉が激しく屈曲する運動をすることである。単発的には痙攣であるが、持続的には椎体外路症候群である。衣架を近づけると雖も猶苛なりとは、外から何らかの干渉を加えても制御出来ないことを示す。当然自発的には抑制不能である。是を何の疾と謂うかとは、其の本体を問うのである。答えは、榮氣虚し衛氣実であり、人、身と志と相有もたずである。此の病理を究明する。